

## 団塊世代以降の社会参加に向けたアンケート調査結果

### (1) 目的

本年度事業のテーマ「団塊世代以降の社会貢献に向けたプログラム策定」にあたり、団塊世代の大量定年退職、近年の急速な社会情勢の変化、それに伴うライフスタイルや個人の価値観の変化と多様化など、団塊世代以降の退職後あるいは高齢期の健康と生きがいづくりを改めて見直す時期に来ている。当財団および調査研究委員会が継続して取り組んできた中高年期のライフデザインとキャリアデザインの中で、これまでのキーワードであった「生きがいづくり、仲間づくり、社会貢献」というテーマは今後どのような意味を持つのか、その意味付けに基づいて、健康生きがいづくりアドバイザーや生きがい情報士の人材育成や活用方策を見直して、新たな取り組みを創出しなければならない。本調査ではそのエビデンスとなる団塊世代以降の生活スタイルやその意識について実態を把握することを目的にアンケート調査を実施した。

### (2) 方法

調査対象は財団が認定している全国の健康生きがいづくりアドバイザー4,631人(2010年2月現在)の中から、昭和22年以後に生まれた団塊世代(昭和22～24年生れ)と、以降世代(昭和25年生まれ以後)のアドバイザー1,137人を調査対象として、2010年2月11日～2月23日を調査期間として、郵送留置法によりアンケート調査を実施した。

アンケートは基本属性項目5項目(性別、年齢、居住地、家族構成、職業)と、経済状況および社会活動への現在の参加状況や将来の希望、老後の生活スタイルのイメージ、最近の社会貢献活動についての知識を問う項目など10項目、これに自由記載1項目を加えた全16項目とし、基本属性・自由回答項目以外の調査項目は5件法により回答を求めた。(表3-14)

分析は団塊世代と以降世代の2群について、年齢以外の基本属性項目および自由記述以外の調査項目の回答傾向をクロス集計して比較した。分析にあたっては統計解析パッケージSPSS16.0を使用した。

表3-14 アンケート調査項目

基本項目	調査項目
1. 性別	1. 経済的余裕感
2. 生年	2. 現在の地域活動行動
3. 居住地	3. 現在の地域活動行動の動機
4. 同居家族の有無	4. 退職後生活の価値感
5. 職業	5. 退職後の地域活動行動の意志
	6. 退職後の社会貢献活動の意志(ボランティア)
	7. 退職後の社会貢献活動の意志(仕事として)
	8. 退職後の就業意志(就労形態)
	9. 退職後の就労意志(希望退職年齢)
	10. コミュニティ・ビジネス・社会的企業の知識

### (3) 結果

アンケート調査対象者 1,137 人のうち 529 人(回収率 46.5%)から回答を得た。このうち年齢記載のない回答は世代分類ができないので除外し、有効回答 510 人(有効回答率 96.4%)について分析を行った。なお 5 件法による回答は程度による「1 まったく…、2 あまり…、3 どちらでもない、4 少し…、5 とても…」という順序尺度によるため、俯瞰的傾向を観るために回答 1 と 2、回答 4 と 5 をそれぞれ併せて 3 値(あり、なし、どちらでもない)に、あるいは回答 1～3 と回答 4～5 を併せて 2 値(あり、なし)に適宜再カテゴリー化して処理した。

#### ①回答者の基本属性と生活現況

有効回答 510 人のうち団塊世代 (60～62 歳、2009 年、以下同様) は男 103 人、女 216 人で計 219 人、以降世代は男 111 人、女 180 人で計 291 人だった。以降世代の女性の回答が 35.5%で、他の世代・性別回答がおよそ 20%強であるのに比して大きいので (表 3-15)、この後は世代別・性別に結果をまとめることにする。

表 3-15 回答者数

単位：人	団塊世代		以降世代		計	
男	103	20.2%	111	21.8%	214	42.0%
女	116	22.7%	180	35.3%	296	58.0%
計	219	42.9%	291	57.1%	510	100.0%

平均年齢は全体で 58.0 歳、性別では男 58.4 歳、女 57.6 歳だった。以降世代の平均年齢は 56.0 歳、性別では男 55.8 歳、女 55.5 歳だった。

職業は男性の場合、団塊世代では会社員 33.0%、自営・自由業 28.2%、無職 16.5%、以降世代は会社員 63.1%が多く、自営・自由業 14.4%、公務員 11.2%だった。女性の団塊世代は無職 28.4%の他、自営・自由業およびパート・アルバイト 18.1%、会社員 11.2%、その他 14.7%で、以降世代の場合はパート・アルバイト 22.2%、会社員 21.1%などだった。(表 3-16)

表 3-16 回答者の職業

単位：人	団塊世代 219 人				以降世代 291 人			
	男 103 人		女 116 人		男 111 人		女 180 人	
回答者数	103	100.0%	116	100.0%	111	100.0%	180	100.0%
会社員	34	33.0%	13	11.2%	70	63.1%	38	21.1%
公務員	4	3.9%	11	9.5%	13	11.7%	16	8.9%
自営・自由業	29	28.2%	21	18.1%	16	14.4%	24	13.3%
パート・アルバイト	6	5.8%	21	18.1%	2	1.8%	40	22.2%
無職	17	16.5%	33	28.4%	2	1.8%	24	13.3%
その他	12	11.7%	17	14.7%	8	7.2%	38	21.1%
無答	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

経済的余裕感については「ややある」「十分ある」併せて団塊世代女性 55.2%、団塊世代男性 47.6%に対して、以降世代男性 34.2%、以降世代女性 32.8%と団塊世代と以降世代で経済的余裕感には差がみられた。(表 3-17)

表 3-17 現在の生活の経済的余裕感

単位：人	団塊世代 219 人				以降世代 291 人			
	男 103 人		女 116 人		男 111 人		女 180 人	
回答者数	103	100.0%	116	100.0%	111	100.0%	180	100.0%
まったくない	9	8.7%	4	3.4%	16	14.4%	13	7.2%
あまりない	19	18.4%	19	16.4%	30	27.0%	39	21.7%
どちらでもない	25	24.3%	29	25.0%	27	24.3%	67	37.2%
ややある	45	43.7%	48	41.4%	33	29.7%	49	27.2%
十分ある	4	3.9%	16	13.8%	5	4.5%	10	5.6%
無答	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

家族構成では、世代・性の別なく配偶者との同居率は 70%以上、同じく子では 40-60%程度だったが、親との同居が以降世代女性 26.1%、以降世代男性 24.3%に対して、団塊世代女性 9.5%、団塊世代男性 14.6%と低かった。(表 3-18)

表 3-18 回答者の家族構成

単位：人	団塊世代(219 人)				以降世代(291 人)			
	男(103 人)		女(116 人)		男(111 人)		女(180 人)	
回答者数	103	100.0%	116	100.0%	111	100.0%	180	100.0%
配偶者と同居	90	87.4%	84	72.4%	102	91.9%	141	78.3%
親と同居	15	14.6%	11	9.5%	27	24.3%	47	26.1%
子と同居	49	47.6%	45	38.8%	70	63.1%	89	49.4%
他の同居者あり	7	6.8%	6	5.2%	3	2.7%	8	4.4%

## ②地域活動への参加行動

調査時点での地域活動への参加状況は、「趣味・サークル活動、学習・習い事活動、ボランティア活動」が各世代・両性共に行動率が高いものの、その志向はやや異なっていた。すなわち、団塊世代が男女とも70%を超えるが、以降世代女性61.1%、同男性55.0%とやや低かった。ボランティア活動は団塊世代男女、以降世代女性が50～65%と過半数なのに対して、以降世代男性35.1%と低かった。なお町内会・自治会活動は団塊世代女性34.5%の他は各群とも20%台といずれも低かった。(表3-19)

表3-19 地域活動への参加現況

単位：人	団塊世代 219人				以降世代 291人			
	男 103人		女 116人		男 111人		女 180人	
回答者数	103	100.0%	116	100.0%	111	100.0%	180	100.0%
町内会自治会	28	27.2%	40	34.5%	31	27.9%	40	22.2%
ボランティア活動	59	57.3%	75	64.7%	39	35.1%	95	52.8%
NPO活動	22	21.4%	17	14.7%	16	14.4%	36	20.0%
趣味サークル	75	72.8%	87	75.0%	61	55.0%	110	61.1%
学習習い事	64	62.1%	71	61.2%	42	37.8%	99	55.0%
その他	8	7.8%	10	8.6%	4	3.6%	9	5.0%

地域活動への参加動機は世代・性別を超えていずれも「やりがい」「チャレンジ」が70～90%、続いて「キャリアの活用」が65～80%程度だった。また例えば、「やりがい」について世代・性別に比較すると、団塊世代男性89.03%に対して、以降世代男性73.9%、団塊世代女性80.2%に対して以降世代女性77.2%と、他の項目も同様に全体的に団塊世代が以降世代よりも動機・理由の肯定率が10～15%ほど高い傾向にあった。(表3-20)

表3-20 地域活動への参加動機

単位：人	団塊世代 219人				以降世代 291人			
	男 103人		女 116人		男 111人		女 180人	
回答者数	103	100.0%	116	100.0%	111	100.0%	180	100.0%
やりがい	92	89.3%	93	80.2%	82	73.9%	139	77.2%
チャレンジ	92	89.3%	93	80.2%	78	70.3%	131	72.8%
キャリアの活用	81	78.6%	91	78.4%	72	64.9%	128	71.1%
地域貢献	76	73.8%	88	75.9%	71	64.0%	116	64.4%
仲間づくり	71	68.9%	74	63.8%	68	61.3%	105	58.3%
その他	4	3.9%	5	4.3%	11	9.9%	17	9.4%

将来参加したい地域活動に対しては、世代・性別に関わらず「趣味・サークル」がいずれも83%と最も高く、続いて「学習・習い事」「ボランティア活動」などが60%以上と続き、前問（表6）の傾向と大きな違いはなかった。しかし、仔細にみると世代・性別で微妙な違いがあり、団塊世代男女および以降世代女性が「趣味・サークル」「学習・習い事」「ボランティア活動」を70～85%が望むのに対して、以降世代男性も同じ傾向にはあるが「ボランティア活動」66.7%とやや低く、しかし、NPO活動は54.1%と過半数が希望していて、団塊世代男女・以降世代女性がいずれも40%台にとどまっているのと差が見られた。さらに、町内会・自治会活動については、団塊世代男女が各37.9%、39.7%に対して、以降世代は性別で異なり、以降世代男性42.3%と団塊世代より高く、逆に以降世代女性29.4%と他に比して特に低かった。（表3-21）

表3-21 地域活動への退職後の参加希望

単位：人	団塊世代 219人				以降世代 291人			
	男 103人		女 116人		男 111人		女 180人	
回答者数	103	100.0%	116	100.0%	111	100.0%	180	100.0%
町内会自治会	39	37.9%	46	39.7%	47	42.3%	53	29.4%
ボランティア活動	75	72.8%	89	76.7%	74	66.7%	126	70.0%
NPO活動	46	44.7%	47	40.5%	60	54.1%	84	46.7%
趣味サークル	86	83.5%	99	85.3%	95	85.6%	150	83.3%
学習習い事	74	71.8%	93	80.2%	77	69.4%	146	81.1%
その他	5	4.9%	3	2.6%	7	6.3%	7	3.9%

### ③退職後の生活と社会貢献活動

退職後の人生で「大切にしたいこと」として「仲間づくり、旅行、スポーツ、趣味、家庭、健康、仕事、その他」について問うと、いずれの項目も半数以上が「大切にしたい」と回答した。世代・性別に関わりなく健康が最も高く、世代・性別により93.9～97.4%と高率だった。ほとんどの回答者が「健康」には関心を示したものの、「スポーツ」への関心は必ずしも高くなく、これを重視するとした回答は62.8～74.8%の範囲だった。その他の項目も高率ではあるが、世代・性別により比率・順位がやや異なった。すなわち2～4位について降順にみると、団塊世代男性は「仲間づくり86.4%、家庭84.5%、趣味82.5%」、団塊世代女性は「趣味93.1%、仲間づくり87.1%、旅行86.2%」に対して、以降世代男性は「趣味91.0%、家庭87.4%、仲間づくり85.6%」、以降世代女性は「趣味87.8%、家庭83.3%、仲間づくり82.8%」の順だった。また「仕事」については、団塊世代女性64.7%、以降世代男性64.0%、団塊世代59.2%、以降世代女性55.0%で、女性で世代間に、また各世代内でわずかな性差が認められた。（表3-22）

表 3-22 退職後人生の価値感

単位：人	団塊世代 219 人				以降世代 291 人			
	男 103 人		女 116 人		男 111 人		女 180 人	
回答者数	103	100.0%	116	100.0%	111	100.0%	180	100.0%
仲間づくり	89	86.4%	101	87.1%	95	85.6%	149	82.8%
旅行	77	74.8%	100	86.2%	92	82.9%	147	81.7%
スポーツ	70	68.0%	82	70.7%	83	74.8%	113	62.8%
趣味	85	82.5%	108	93.1%	101	91.0%	158	87.8%
家庭	87	84.5%	95	81.9%	97	87.4%	150	83.3%
健康	100	97.1%	113	97.4%	107	96.4%	169	93.9%
仕事	61	59.2%	75	64.7%	71	64.0%	99	55.0%
その他	4	3.9%	4	3.4%	5	4.5%	14	7.8%

非営利活動促進法の活動分野分類をもとに、退職後のボランティア活動への関心を聞いたところ、世代・性別では以降世代男性を除いて上位 3 位までが「生涯学習・保健医療福祉・文化芸術体育」で同順だった。すなわち 1 位「生涯学習」では団塊世代女性 81.0%、団塊世代男性 77.7%、以降世代女性 78.3%、2 位「保健医療福祉」では団塊世代女性 76.7%、以降世代女性 70.6%、団塊世代男性 66.0%、3 位「文化芸術体育」では団塊世代女性 65.5%、団塊世代男性 65.0%、以降世代女性 60.0%だった。

異なる傾向を示した以降世代男性の上位は「文化芸術体育」71.2%、「生涯学習」69.4%、「保健医療福祉」63.1%だった。その他の分野でも世代・性別で関心分野が異なるものがあり、例えば「育児子育て支援」は女性が以降世代共に 60%前後であるのに対して、男性は両世代共に 20%強と低かったり、「人権・平和」分野では団塊世代女性 40.5%が突出して他は低く、団塊世代男性 28.2%、以降世代男性 28.8%、以降世代女性 31.7%と比較的低かった。

また、50%を超える、すなわち半数以上の回答者がいた分野数を数えると、団塊世代男性 5 分野、団塊世代女性 9 分野、以降世代男性および女性はいずれも 4 分野で、団塊世代女性のボランティア活動への関心が特に高いことが示された。(表 3-23)

表 3-23 退職後のボランティア活動への分野別関心

単位：人	団塊世代 219 人				以降世代 291 人			
	男 103 人		女 116 人		男 111 人		女 180 人	
回答者数	103	100.0%	116	100.0%	111	100.0%	180	100.0%
保健医療福祉	68	66.0%	89	76.7%	70	63.1%	127	70.6%
生涯学習	80	77.7%	94	81.0%	77	69.4%	141	78.3%
まちづくり	61	59.2%	74	63.8%	66	59.5%	85	47.2%
文化芸術体育	67	65.0%	76	65.5%	79	71.2%	108	60.0%
環境リサイクル	39	37.9%	67	57.8%	55	49.5%	83	46.1%
災害救援	36	35.0%	65	56.0%	46	41.4%	72	40.0%
地域安全	53	51.5%	59	50.9%	52	46.8%	69	38.3%

人権平和	29	28.2%	47	40.5%	32	28.8%	57	31.7%
国際協力交流	32	31.1%	51	44.0%	40	36.0%	70	38.9%
男女共同参画	24	23.3%	55	47.4%	32	28.8%	62	34.4%
育兒子育て支援	24	23.3%	72	62.1%	27	24.3%	102	56.7%
産業消費者	29	28.2%	44	37.9%	41	36.9%	55	30.6%
食品農業	43	41.7%	66	56.9%	55	49.5%	86	47.8%
その他	1	1.0%	1	0.9%	3	2.7%	3	1.7%

前項と同じ方式でその同じ分野の社会貢献活動を「収入を得る仕事」として活動するか尋ねてみると、関心分野はほぼ同じであるものの、ボランティア活動として行うなら上位分野は既述のごとく90%台と非常に高いが、「仕事として行う」とすると回答率はおおむね60%以下だった。わずかであるが順位も逆転して、1位は「保健医療福祉」で以降世代女性63.3%、団塊世代女性58.6%、以降世代男性55.0%(生涯学習と同率)で、団塊世代男性は「生涯学習」54.4%が1位だった。各群の3位は以降世代共に男性が「文化芸術体育」で、以降世代男性38.7%、団塊世代男性35.9%、女性は両群共に「育兒子育て支援」で団塊世代36.2%、以降世代40.0%だった。以下「食品農業」(28.2~38.7%)、「まちづくり」(26.7~36.0%)、「産業・消費者」(19.4%~34.2%)などが30%程度だったが、「産業・消費者」では男性の団塊世代と以降世代で15%の開きがあり、育兒子育て分野の性差と共に、分野によって同性内でも世代間格差がみられた。(表3-24)

表3-24 退職後の「仕事」としての社会貢献活動への関心

単位：人	団塊世代 219人				以降世代 291人			
	男 103人	女 116人	男 111人	女 180人	男 111人	女 180人	男 111人	女 180人
回答者数	103	100.0%	116	100.0%	111	100.0%	180	100.0%
保健医療福祉	47	45.6%	68	58.6%	61	55.0%	114	63.3%
生涯学習	56	54.4%	59	50.9%	61	55.0%	105	58.3%
まちづくり	35	34.0%	31	26.7%	40	36.0%	57	31.7%
文化芸術体育	37	35.9%	41	35.3%	43	38.7%	69	38.3%
環境リサイクル	23	22.3%	26	22.4%	28	25.2%	33	18.3%
災害救援	13	12.6%	19	16.4%	20	18.0%	29	16.1%
地域安全	26	25.2%	24	20.7%	25	22.5%	34	18.9%
人権平和	14	13.6%	18	15.5%	16	14.4%	34	18.9%
国際協力交流	19	18.4%	29	25.0%	25	22.5%	45	25.0%
男女共同参画	16	15.5%	33	28.4%	16	14.4%	40	22.2%
育兒子育て支援	11	10.7%	42	36.2%	21	18.9%	72	40.0%
産業消費者	20	19.4%	34	29.3%	38	34.2%	42	23.3%
食品農業	29	28.2%	38	32.8%	43	38.7%	55	30.6%
その他	3	2.9%	0	0.0%	3	2.7%	1	0.6%

なお、上記2問に関連して、近年話題になっている「コミュニティ・ビジネス」「社会的企業」について質問したところ「知っている」と答えたのは団塊世代男性 65.0%、団塊世代女性 58.6%、以降世代男性 57.7%、以降世代女性 55.0%で、いずれも半数強が知っていた。(表 25)

表 3-25 コミュニティ・ビジネス・社会的企業の知識

単位：人	団塊世代 219人				以降世代 291人			
	男 103人		女 116人		男 111人		女 180人	
回答者数	103	100.0%	116	100.0%	111	100.0%	180	100.0%
知っている	67	65.0%	68	58.6%	64	57.7%	99	55.0%
知らない	31	30.1%	47	40.5%	43	38.7%	80	44.4%
無答	5	4.9%	1	0.9%	4	3.6%	1	0.6%

さらに就労関連では、退職後の就労意欲を調べる目的で就労形態と希望退職年齢を質問した。就労形態では、世代・性別を超えて「パートタイム」との回答が多く、団塊世代女性 59.5%、以降世代女性 56.1%、団塊世代男性 44.7%、以降世代男性 43.2%で、男性よりさらに女性のほうが希望が強かった。「フルタイム」就労は性差があり、男性の以降世代 31.5%、団塊世代 26.2%に対して、女性は団塊世代 9.5%、以降世代 10.6%と低かった。また、「起業」したいとした人は全体には少ないものの、以降世代男性が 18.0%、団塊世代男性が 17.5%のほか、以降世代女性が 13.9%あり、ただし団塊世代女性が 7.8%と、この群は他群より低かった。なお、「働く意志なし」でも性差が認められ、団塊世代女性 19.8%、以降世代女性 16.7%が、以降世代男性 6.3%、団塊世代男性 11.7%に比べて高かった。(表 3-26)

表 3-26 定年退職後の希望就労形態

単位：人	団塊世代 219人				以降世代 291人			
	男 103人		女 116人		男 111人		女 180人	
回答者数	103	100.0%	116	100.0%	111	100.0%	180	100.0%
フルタイム	27	26.2%	11	9.5%	35	31.5%	19	10.6%
パートタイム	46	44.7%	69	59.5%	48	43.2%	101	56.1%
起業	18	17.5%	9	7.8%	20	18.0%	25	13.9%
働く意志なし	12	11.7%	23	19.8%	7	6.3%	30	16.7%
無答	0	0.0%	4	3.4%	1	0.9%	5	2.8%

退職希望年齢については、団塊世代男性は「61～65歳」33.0%、「66～70歳」34.0%、「71～75歳」18.4%で意見が割れた。以降世代男性では「61～65歳」46.8%と半数近くなり、続いて「66～70歳」21.6%、「71～75歳」15.3%だった。団塊世代女性は「61～65歳」43.1%、「66～70歳」24.1%、「60歳」16.4%、以降世代女性は「61～65歳」41.1%、「66～70歳」21.1%、「60歳」14.4%の順だった。いずれも65歳前後の退職希望が多いが、男性よりも女性に「60歳」とする回答が多かった。(表 3-27)

表 3-27 退職希望年齢

単位：人	団塊世代 219 人				以降世代 291 人			
	男 103 人		女 116 人		男 111 人		女 180 人	
回答者数	103	100.0%	116	100.0%	111	100.0%	180	100.0%
60 歳	7	6.8%	19	16.4%	6	5.4%	26	14.4%
61-65 歳	34	33.0%	50	43.1%	52	46.8%	74	41.1%
66-70 歳	35	34.0%	28	24.1%	24	21.6%	38	21.1%
71-75 歳	19	18.4%	9	7.8%	17	15.3%	18	10.0%
81 歳以上	7	6.8%	0	0.0%	10	9.0%	10	5.6%
無答	1	1.0%	10	8.6%	2	1.8%	14	7.8%

#### (4) 考察とまとめ

##### ①退職後生活のイメージ

退職後に求めることの中で 95%以上の回答者が「健康」を一番求めたのは、本調査対象者が健康生きがいがづくりアドバイザーであったことのバイアスによるものであろう。よってこれを除外してみると、いずれの項目も 70～80%以上と高い中で、特に「趣味」「家庭」「仲間づくり」がおおよそ 85%と高い値であった。さらに、社会貢献活動についても「生涯学習」や「保健医療福祉」、加えて特に以降世代ではこれに続いて「文化芸術体育」への関心が強いこと。また、現在の地域活動や将来(退職後)の希望でも同じように「趣味」「学習」が上位に位置することなどから、本調査対象集団は私的生活への志向が強いことがわかった。団塊世代女性でもその傾向が強く、「退職後に趣味を」が 93%と最も高く、現在の活動状況でも、NPO 活動(14.7%)や町内会活動(34.5%)と低いことから明らかである。年齢的に以降世代女性の生活状況を配慮しても、この群でやはり町内会活動が現在(22.2%)、将来(29.4%)ともに志向があまりないことをみると、これは世代を超えた傾向と見ることができる。しかし、公的志向がまったくないわけではなく、特に以降世代男性の地域活動についてみると、NPO 活動は現在(14.4%)あまり活動していないが、将来は半数以上(54.1%)、町内会活動の現在(27.9%)よりも将来(42.3%)はやってみたいとする人が高いことなどもある。

地域活動における「町内会」「NPO 活動」への参加の低さ(10～30%台)の低さにも関わらず、「ボランティア活動」への参加は、以降世代(35.1%)、以外の団塊世代男(57.3%)、女(64.7%)と以降世代女性(52.8%)は過半数と高く、また参加理由はいずれも「仲間づくり」や「地域貢献」(50～70%台)以上に「やりがい」「チャレンジ」(70～80%台)と私的理由が上位にあることなどから、組織や社会といった「公的意識」よりも「私的世界」の自己実現が優位にある意識傾向が推定される。

趣味的生活志向は就労に関する回答にも表れており、就労継続意志はいずれの世代・性別ともにそれほど強くない。いわゆる「(生活のための、稼ぐための)仕事」は男性が「65～70 歳」くらい、女性は少し早めで「60～65 歳」くらいで辞めたい者が半数近くあり、退職後も働くとしたら就労形態も「パートタイム」が男性で 45%程度、女性は 60%近くがそのように考えて

いる。同じく社会貢献活動を「ボランティア」として活動するなら分野により 70%以上が活動したいと答えるが、それを「仕事とする」と 50%を下回った。「定年」を機に「仕事は辞める」とする考え方が根強いようである。

## ②団塊世代以降の「世代間のズレ」

統計学的有意差の有無を考慮せずに掲載した各表を俯瞰的に見渡すと、同性の団塊世代と以降世代の回答数値(%)を比較すると、傾向が異なる時も、あるいは同じ傾向の時にもほぼ 10~20%程度の値の差があったり、あるいは数値に基づく項目順位を取ると 1 位は同じでも 2 位以下の順序が異なることが見られる。

例えば、表 3-20「地域活動への参加動機」は男女共に団塊世代の数値が以降世代のそれよりもほぼ 10%ずつ上回っている。表 3-22「退職後人生の価値感」は、「健康」が 1 位で同じでも 2 位以下(趣味・仲間づくり)が団塊世代男性だけ異なる。調査票構成の問題から、これは「気持ちの強さの現われ」「表現の違い」を表すものと考えられ、世代間の表現あるいはコミュニケーションスタイルの違いによるものと推定される。ライフスタイルとしても、先ほどの表 3-22 他から団塊世代には「仲間づくり」あるいは「人志向」の回答傾向が見られるのに対して、以降世代は「趣味」「家庭」などが優先して「仲間づくり」はそれほど重視していない一面が見え、むしろ「活動志向」の回答傾向が見えるように思われる。退職後あるいは中高年期のキャリアあるいはライフデザインを考える際、そのための集団形成や研修スタイル、あるいは退職前後の社会と個人との関係のあり方に関する学び方を根本的に見直していかないと、退職後の社会貢献活動や健康生きがいづくり支援活動は円滑に進められないように思われる。

## ③まとめ

「健康・経済・生きがい」のうち、団塊世代以降の退職後の人生と生活は未だに「退職後は私的生活優先」「健康を前提に趣味に生きる」というイメージである。退職後の仲間づくりというのも私的な関係、趣味や私的活動を共有できる人たちの小グループを意味する。高齢社会を迎えたこの国と地域社会にとって、定年退職者には「生涯現役」で地域社会に貢献し続けてもらわなければ社会の活力は生まれない。「定年退職」が社会とのニュートラルな関係の始まりで、健康や経済が何とか安定していれば、それに関わらず、もし関わるとすればその健康や経済が破綻した時、つまり再登場は「社会にケアされる者」としてしかないということが透けて見える。「健康な限りは社会と関わり続け、社会に貢献する」という、新たな定年後のイメージを持つか、あるいは「定年退職」そのものを見直す時期に来ている。社会的制度は存続していても、定年退職者自身が自ら社会とニュートラルな関係に入らず、退職後の社会との関係の持ち方を見つけて、人生を継続するための退職期キャリアデザインの実践的モデルが示されるべきである。その糸口は本調査でもいくつか見えるが、例えば生涯学習や医療福祉(つまりは健康関連)分野へのボランティア活動と就労を視野に入れた同分野での活動などは、教育・介護が現代日本の重要なテーマとなっている中で、自らの健康と生きがいにも配慮した定年後就労のキャリアパスを創出しなければならない。

団塊世代と以降世代、またこの二世代の男女間には、その家庭経済の余裕の違いと生きがい感に「微妙なズレ」があることも指摘した。「仲間づくり」あるいは「家庭」に求めるものが世代・性別間格差があることは以前から指摘されているが、今回もそれが改めて示された。長い人生を組織の中で生きてきた中高年男性が「趣味」的な活動の中で「仲間」を求めること、それに対して女性はむしろ「趣味」「家庭」「旅行」などを求めていること。あるいは、団塊世代が「仲間づくり」を意識しているのに対して、以降世代はむしろ「活動対象」に目が向いていることなど、それぞれの志向や特性に配慮した中高年期の健康生きがいづくりの支援プログラムを策定して行くことが必要である。

長谷川 聡